

鹿骨小学校応援団実践報告書

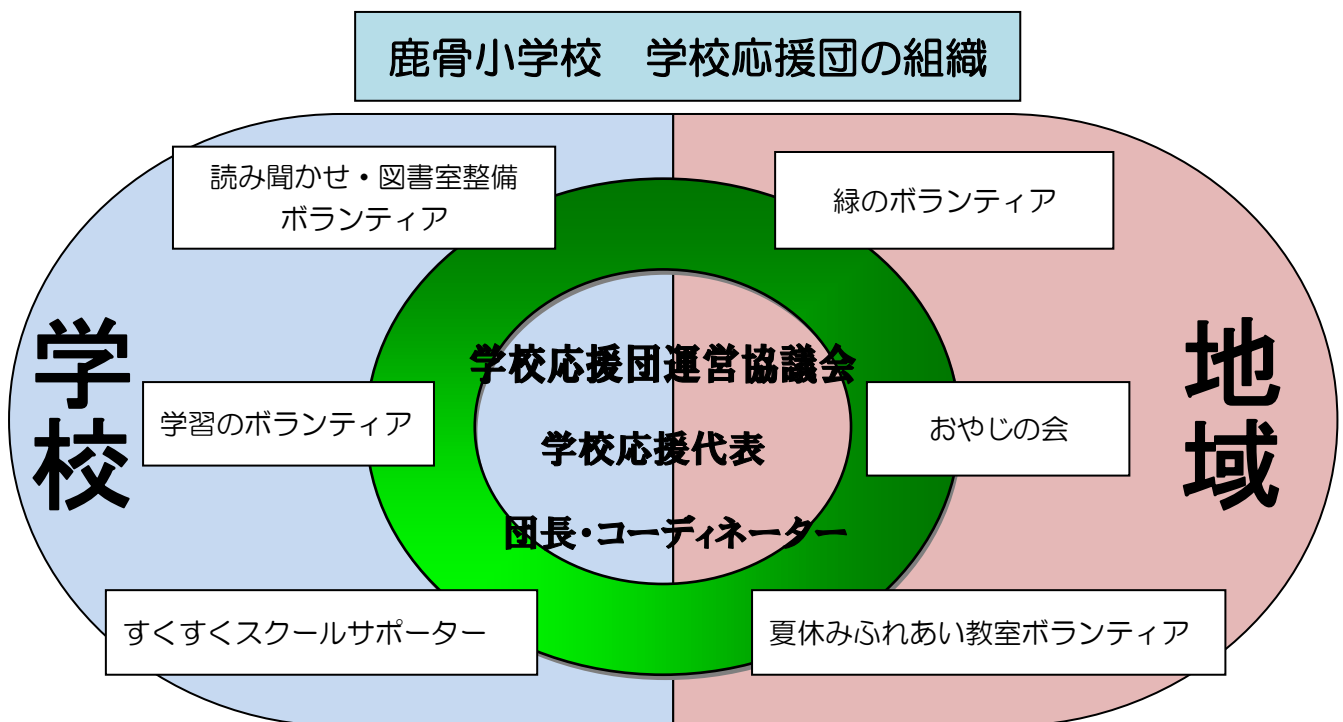
1. 校長およびコーディネーター、団長名

鹿骨小学校長 土屋 勉
代 表 高濱 頼 秋

2. 今年度の活動内容

- ・読み聞かせボランティア・・・毎週水曜日 朝読書の時間に読み聞かせ
年間 37回 のべ 207冊
図書室改造大作戦 22回
(図書室の装飾、本の整備 調べ物図書室の整備)
- ・緑のボランティア・・・年4回校庭の花植え 生活科や社会科の地域学習の協力
花の提供を受けて、花の寄せ植えの指導、手伝い
- ・おやじの会・・・学校行事（運動会テント等設営や片付け）の手伝い
PTAわくわくフェスタへの参加
- ・学習支援ボランティア・・・生活科や社会科見学の地域めぐり、交通安全教室の引率補助
スイートポテト作りの手伝い
地域学習のゲストティーチャー
- ・すくすくスクールサポーター・・・読み聞かせ会、星を見る会、サッカー・ドッジボール大会
クリスマスイベント「スノードーム作り」
夏休みふれあい教室の講師

3. 学校応援団組織図



4. 今年度の成果と今後の課題

< 成 果 >

- 10月に、学校応援団運営協議会を行った。今までも行ってきた活動を、応援団のくくりに入れて、各グループの主体性を尊重しながら運営していくことを確認し合った。運営協議会の中で「すくすくサポートセンター」と「おやじの会」のコラボレーションでできるものを考えたいなど協力しようとする意見が出た。
- 読み聞かせボランティアは、毎週水曜日に読み聞かせをしていて、年間207冊読んだことになる。1学期は毎週、2学期からは月1回、図書の整備や調べ室の整備など「図書室改造計画」を学校図書館司書教諭のリードのもとに活発に活動している。大変使いやすい図書室になった。
- 地域の16花園さんから、花の提供を受けて異学年交流活動として花の寄せ植えの伝統が定着している。花の寄せ植えの仕方も指導している。花は地域の心を寄せる大切な行事である。花をもつ子供たちの手はとても優しい。
- 夏休みのふれあい教室では、卓球、シャボン玉のほか、押し花のコスター作りなど文化的な遊びを行っているが、地域の方が講師を務めてくださっている。



< 課 題 >

- 学校応援団の活動をできるだけ地域や保護者に伝え、ネットワークを密にしたいと思う。連絡調整や広報を行う学校の負担は大きい。地域の人材による事務局が設置できるとよい。
- 積極的なメンバーは、いくつかのグループに属している。メンバーを増やすことは、大きな課題である。
- 今までのPTA活動とのすみ分けが必要である。

5. 代表より

鹿骨地域は、花栽培が盛んなところで花園さんがたくさんあります。古くから花寄せを行い、花を通して地域と子供たちとの心を寄せ合う行事を行っています。地域の伝統を大切に、未来の地域を担う子供を育てていきたい。

6. 学校長より

「輝け 鹿骨っ子」とそこに暮らす人たちも温かく心の美しい方々です。鹿骨小の子供たちは恵まれた環境に包まれて過ごしています。

「鹿骨の町が大好きで、鹿骨小学校が大好きな子供たち」かかわり合いの大切さを学び、育てていきたいと思えます。そのために学校応援団を中心として、さらに学校・家庭・地域のつながりを堅固なものにしていきたいと思えます。